

ブルーアース' 11 要旨原稿作成要領

1. 要旨原稿の仕様（下記「要旨原稿サンプル」参照）

① ページ設定

- ・ 要旨原稿作成は A4 サイズの枠取りの中で 1 段書きとし、文字は **Microsoft Office Word ファイルの MS 明朝フォント** をお願いします。
- ・ 余白は上下 30mm、左右 25mm。
- ・ 1 頁あたりの行数は **40 行以内**。

② 書式

- ・ 1 課題につき、**A4 版 2 ページ以内（図表を含む）**。
- ・ 原稿の第 1 頁の冒頭部には 6 行の改行スペースを作成し、その行内に発表課題名、発表者名及び共同発表者名、所属先を記入してください。その後、7 行目から本文を記載してください。
- ・ 当日の代表発表者と共同発表者の区別するために**当日の代表発表者氏名の前に○印**をつけてください。

【発表課題名】

- ・ フォントサイズは太字 14pt で「中央揃え」。

【発表者名・所属機関名】

- ・ フォントサイズは 10pt で「中央揃え」。
- ・ 姓と名の上に全角スペースを入力。
- ・ 所属機関名は発表者氏名の後「()」内に記入。
- ・ 発表者名の順番の中で、同じ所属機関の発表者名が続く場合は、全角「・」でまとめてください。
- ・ 発表者名の順番の中で、所属機関名が異なる場合は全角「,」で区切ってください。

【本文】

- ・ フォントサイズは 10pt で「両端揃え」。
- ・ なお、要旨原稿集は**白黒で印刷**致しますので、図表の色バランス等を確認してください。

【図表】

- ・ 図表は静止画像のファイル形式（BMP 形式・GIF 形式・JPEG 形式いずれか）で保存したものを本文に貼り付け、キャプションは 8pt にしてください。

2. 要旨原稿の提出方法

Word ファイルと、それを **PDF ファイル**にしたもの**両方**を E-mail にてご送付ください。

3. 校正

印刷に際し、こちらでは本文の校正は一切行いません。発表者名・所属機関名は応募者が責任を持ってご確認ください。

なお、文字のフォントおよびサイズは、統一のため変更させていただく場合がございますので、ご了承ください。

余白 30mm

発表課題名は太字 14pt、中央揃え

西部熱帯太平洋のエルニーニョ発生との関連

○海洋 太郎（海洋研究開発機構），未来 二郎（海洋大学），
夏島 花子・関根 睦男（海洋研究開発機構），青森 三郎（JAMSTEC 大学）

発表課題名から本文まで 6 行

発表者名・所属機関名 10pt、中央揃え

余白
25mm

本文は 10pt、両端揃え

余白
25mm

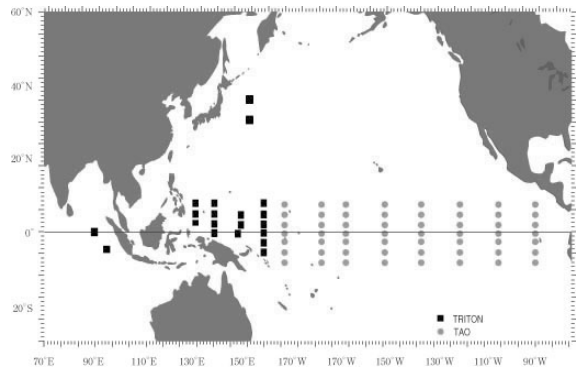
エル・ニーニョ*1現象のメカニズムを解明するために、国内で開発された海洋観測用ブイです。このブイは、海上気象（風向・風速、気圧、気温、湿度、日射、雨量）と水温、塩分、流向・流速を観測し、1時間毎の平均データを、アルゴス衛星通信*2経由で陸上に出すことができます。このブイは、海洋地球船「みらい」の就航を待って設置されてきましたが、現在（2001年3月現在）は、10基（2000年末に18基となる予定）のブイが赤道海域の西方を中心に設置されており、それらのブイからは、衛星を通して毎日、海洋科学技術センターの「むつの研究室」にデータが送られてきています。なお、同様のブイ「トラスブイ」*3もありますが、これは、米国のNOAA（National Oceanic and Atmospheric Administration：米国海洋大気局）が所有するブイで、太平洋中央部から東方に設置されています。

表層の温度が急激に低下する深度を代表する20℃の等温線は、熱がどれだけ蓄積されているのかを示す一つの指標となっており、この等温線が深ければ暖かい海水が表面に蓄められていることを示しています。

1997から1998年に発生した今世紀最大といわれたエル・ニーニョでは、1996年3月に、西太平洋で最大190mの深度に20℃の等温線が観察され、この海域に暖水が蓄えられました。そして、この等温線は、エル・ニーニョの発生にともない130mまで浅くなりましたが、この浅くなった部分の暖水は、東太平洋に運ばれ、それによりペルー沖では、20℃の等温線は、平均値よりも80mも深くなりました。このように、エル・ニーニョの前年に西太平洋に暖水が蓄えられることがエル・ニーニョの発生の一つの条件となっていることを示しています。



設置されたトライトンブイ



設置されている海域

キャプションは 8pt

余白 30mm